

第50回 日本フィル 夏休みコンサート 2024



好評
発売中!

【料金】全席指定・消費税込

S席 子供 3,400円 / 大人 5,600円
A席 子供 2,700円 / 大人 4,600円
B席 子供 2,000円 / 大人 3,600円

※ 子供 = 4歳~高校生

※ 4歳未満は入場できません。

チケットはお一人一枚ご用意ください。

★演奏時間は休憩を含めて約1時間50分です。

~プログラム~

第1部

夏休みコンサート50回記念

♪信長貴富:《音楽のとびら》

~管弦楽のためのファンファーレ~

♪アンダーソン: 舞踏会の美女

♪エルガー: 愛のあいさつ

♪ホルスト: 《惑星》より木星
(夏休みコンサート版)

第2部

—— バレエ (7/19~31) ——

♪チャイコフスキー: バレエ《くるみ割り人形》
(夏休みコンサート2024版)

—— わくわくピアノ (8/2~6) ——

♪バッハ: メヌエット

♪ショパン: 幻想即興曲

♪ドビュッシ: 《ゴリウオーグのケーキウォーク》
「子供の領分」より

♪ガーシュウィン: ラブソディ・イン・ブルー

第3部

♪さんぽ ♪ふるさと ♪勇気 100%

第2部 バレエ

指揮: 梅田俊明 / お話とうた: 江原陽子

バレエ: スターダンサーズ・バレエ団 / バレエ演出・振付: 鈴木稔

7月19日 金 14:00 相模女子大学グリーンホール

7月20日 土 13:00 & 17:00 東京芸術劇場

7月21日 日 13:00 & 16:30 サントリーホール

7月25日 木 14:00 松戸・森のホール 21

7月27日 土 13:00 & 16:30 ソニックシティ (大宮)

7月28日 日 13:00 & 16:30 横浜みなとみらいホール

7月30日 火 14:00 ウェスタ川越大ホール

7月31日 水 14:00 江戸川区総合文化センター

♪特設ページ♪



第2部 ピアノ

指揮: 永峰大輔 / お話とうた: 江原陽子 / ピアノ: 上原彩子

8月 2日 金 13:00 & 16:30 サントリーホール

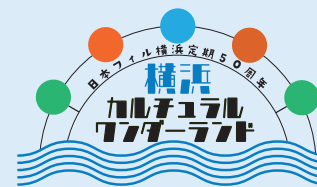
8月 3日 土 13:00 & 16:30 横浜みなとみらいホール

8月 6日 火 13:00 & 17:00 東京芸術劇場

【お申し込み】日本フィル・サービスセンター

☎ 03-5378-5911 (平日 10時~17時)

eチケット♪ <https://eticket.japanphil.or.jp>



人、音楽、自然——日本フィルのテーマです。

JAPAN
PHILHARMONIC
ORCHESTRA

—— 創立指揮者 渡邊 暁雄 ——

日本フィルハーモニー交響楽団
JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

第398回

横浜定期演奏会

398th YOKOHAMA Subscription Concert

2024年 6月15日(土) 午後5時開演

横浜みなとみらいホール

5:00pm June 15th(Sat.), 2024, at Yokohama Minato Mirai Hall



主催: 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援: 神奈川新聞社、TBS

協力: 横浜みなとみらいホール

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術等総合支援事業(創造団体支援))
独立行政法人日本芸術文化振興会





日本フィル横浜定期演奏会 50周年 〈横浜カルチュラル・ワンダーランド〉

朝日カルチャーセンター横浜教室

レクチャー
コンサート

『社会文化史から読み解く日本フィル横浜定期400回記念』

弦楽四重奏の世界 モーツァルトからチャイコフスキーまで

2024年7月15日(月・祝) 14:30~16:00 ※有料
(詳細はチラシ・HP)

講師:小宮正安(横浜国立大学教授)

日本フィル弦楽四重奏(Vn 佐藤駿一郎、竹歳夏鈴 Va 中川裕美子 Vc 江原望)

弦楽四重奏の演奏を聴きながら、音楽史の中に浮かび上がる日本フィルの横浜定期の歩みとこれからの、作品が生まれた社会文化の視点から読み解きます。

【お申込み・お問合せ】朝日カルチャーセンター横浜教室 TEL 045-453-1122

横浜アンサンブル・ワンダーランド Vol.2

～日本フィル・クラリネットセクションによる室内楽～

日本フィル「最高の男4人」が魅せるクラリネット・アンサンブル JPO Quatre Homme plus

昨年大好評だった日本フィル室内楽シリーズの第2弾。今回は日本フィルの木管セクションを支えるクラリネット4名によるスペシャルユニットJPO Quatre Homme plusが横浜初公演！後半にはトークショーでメンバーの魅力も掘り下げます！

好評
発売中！

2024年6月27日(木) 18:30開演(18:00開場)

横浜みなとみらいホール 小ホール

JPO Quatre Homme plus [クラリネット四重奏]

伊藤寛隆(首席奏者) 楠木 慶(副首席奏者) 照沼夢輝 堂面宏起

第一部 クラリネット四重奏コンサート(約60分)

グランドマン:クラリネットのためのカプリス

ヘンリー:バードウォッチング ラヴェル(杉本哲也編曲):クーブランの墓

チャイコフスキー(杉本哲也編曲):幻想序曲《ロメオとジュリエット》

第二部 ライブトークショー(約30分)

ここでしか聞けないスペシャルトークをたっぷりお届け！

■料金(税込/全席指定) 一般:¥3,000 会員:¥2,500* U18シート:¥1,000

*日本フィル各種会員、みなとみらいウェブフレンズ

堂々たるベートーヴェン —現代を代表する偉大な両巨匠が登場

エリソ・ヴィルサラゼはジョージア(グルジア)出身の名ピアニスト。G.ネイガウス、リヒテルの系譜をつぐロシアン・ピアノリズムを具現化する大家としての名声だけでなく、長年モスクワ音楽院で教鞭をとるなど、教育者としても世界的に知られた存在です。教え子にはあのペレゾフスキーをはじめ、一流のアーティストも数多く、その至高の芸術性に魅せられた人は数知れません。今回は日本フィル桂冠名誉指揮者小林研一郎と共に堂々たるベートーヴェン《皇帝》を演奏いたします。現代を代表する偉大な両巨匠の豪華共演を存分にご堪能ください。

公演後半にはベートーヴェンの心象風景の投影と共に真からの自然賛歌と言える名曲《田園》交響曲をお届けいたします。

Programs

ベートーヴェン:

ピアノ協奏曲第5番《皇帝》変ホ長調 op.73 (約35分)

Ludwig van BEETHOVEN:

Concerto for Piano and Orchestra No.5 "Emperor" in E-flat major, op.73

—— 休憩(20分) Intermission ——

ベートーヴェン:

交響曲第6番《田園》へ長調 op.68 (約50分)

Ludwig van BEETHOVEN: Symphony No.6 "Pastorale" in F-major, op.68

指揮:小林研一郎 [桂冠名誉指揮者]

Conductor: KOBAYASHI Ken-ichiro, Honorary Conductor Laureate

ピアノ:エリソ・ヴィルサラゼ

Piano: Elisso VIRSALADZE

コンサートマスター:扇谷泰朋 [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: OGITANI Yasutomo, JPO Solo Concertmaster

ソロ・チェロ:菊地知也 [日本フィル・ソロ・チェロ]

Solo Violoncello: KIKUCHI Tomoya, JPO Solo Violoncello

※当初発表の内容から変更になりました。

©山本倫子



指揮：小林研一郎
[桂冠名誉指揮者]

東京藝術大学作曲科及び指揮科を卒業。第1回ブダペスト国際指揮者コンクールでの鮮烈な優勝を飾ったことを皮切りに世界的に活動の場を拡げ、現在も第一線で活躍を続けている。音楽に対する真摯な姿勢と情熱的な指揮ぶりは「炎のコバケン」の愛称で親しまれ、名実共に日本を代表する指揮者である。

これまで海外ではハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団、ネーデルランド・フィルハーモニー管弦楽団(25年間、常任客演指揮者を務める)、アーネム・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団、フランス国立放送フィルハーモニー管弦楽団、ローマ・サンタ・チェチーリア国立管弦楽団、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ハンガリー放送交響楽団等、国内ではNHK交響楽団、読売日本交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、東京都交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団等、名立たるオーケストラと共演を重ね、数多くのポジションを歴任。2002年プラハの春音楽祭では東洋人初のオープニング「わが祖国」を指揮して万雷の拍手を浴びた。この長年にわたる文化を通じた国際交流や社会貢献によって、ハンガリー政府よりハンガリー国大十字功労勲章(同国で最高位)等、国内では旭日中綬章、文化庁長官表彰、恩賜賞・日本芸術院賞等を受賞。

作曲家としても数多くの作品を書き、1999年に日本・オランダ交流400年記念の委嘱作品、管弦楽曲『パッサカリヤ』を作曲、ネーデルランド・フィルハーモニー管弦楽団によって初演されると、聴衆から熱狂的な喝采を以て迎えられた。同作品はそれ以降もアシュケナージ指揮 NHK交響楽団、小林研一郎指揮日本フィルハーモニー交響楽団等で再演されている。2005年、社会貢献を目的としたオーケストラ「コバケンとその仲間たちオーケストラ」を設立、以来全国にて活動を続けている。

CD、DVDはオクタヴィア・レコードより多数リリース。著書に『指揮者のひとりごと』(日本図書協会選定図書)等がある。

現在、日本フィルハーモニー交響楽団桂冠名誉指揮者、ハンガリー国立フィルハーモニー管弦楽団・名古屋フィルハーモニー交響楽団・群馬交響楽団桂冠指揮者、読売日本交響楽団特別客演指揮者、九州交響楽団名誉客演指揮者、東京藝術大学・東京音楽大学・リスト音楽院名誉教授、ロームミュージックファンデーション評議員等を務める。

© Nikolai Puschilin



ピアノ：エリソ・ヴィルサラゼ

グルジア(現ジョージア)の首都ティフリス(トビリシ)生まれ。代々グルジアの芸術文化に深いかかわりを持つ家系に生まれ育つ。ピアノの手ほどきを、祖母のアナスターシャ・ヴィルサラゼ教授から受けた後、モスクワへ移り、

ゲンリフ・ネイガウスおよびヤコフ・ザークに師事。20歳で、チャイコフスキー・コンクール3位入賞を果たし、24歳の時にシューマン国際コンクールで優勝。

モーツァルト、ベートーヴェン、ショパンなど、18世紀および19世紀後期の作品に対し深い愛着を持ち、とりわけシューマンの作品の最も優れた解釈を行う現代の演奏家のひとりとして、高い評価を得ている。また、現代の作曲家を含む、ロシア音楽の幅広いレパートリーを持ち、旧ソ連の権威ある芸術賞を多数受賞している。

ヨーロッパの主要音楽都市にて定期的にリサイタルを行うほか、ナタリア・グートマンとのデュオ・リサイタルも各地で展開している。室内楽およびサンクトペテルブルグ・フィル、ロイヤル・フィル等のオーケストラとの共演では、北米、日本、ヨーロッパで大規模なツアーを行う他、各地の一流オーケストラと定期的に共演している。

今までにルドルフ・バルシャイ、キリル・コンドラシン、リッカルド・ムーティ、クルト・ザンデルリング、ヴォルフガング・サヴァリッシュ、エフゲニー・スヴェトラノフ、ユーリー・テミルカーノフなど、多くの著名指揮者と共演。

優れた教育者としても知られており、モスクワ音楽院およびミュンヘン音楽大学の常任教授を務めるほか、主要な国際音楽コンクールの審査員にしばしば招かれている。

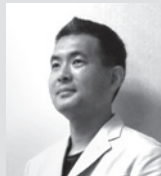
ライブ・クラシックス・レーベルからは多くの録音をリリースしている。



今日のコンサートの聴きどころは？

ヨーロッパ文化史研究家小宮正安さんの
面白解説をお楽しみください！

16時20分
より
大ホール内
にて♪



小宮正安(こみや まさやす) ●ヨーロッパ文化史・ドイツ文学研究家。横浜国立大学(大学院都市イノベーション学府・都市科学部)教授。著書に『コンスタンツェ・モーツァルト(悪妻)伝説の虚実』(講談社選書メチエ)、『名曲誕生 時代が生んだクラシック音楽』(山川出版社)、『音楽史 影の仕掛人』『オーケストラの文明史 ヨーロッパ3000年の夢』(春秋社)、『モーツァルトを「造った」男 ケッヘルと同時代のウィーン』(講談社現代新書)、『愉悦の蒐集 ヴンダーカンマーの謎』(集英社新書)など多数。『ウィーンフィル・ニューイヤーコンサート』でのコメンテーターをはじめテレビやラジオへの出演、『東京・春・音楽祭』でのナビゲーターなど、幅広い分野で活躍している。

ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番《皇帝》変ホ長調 op.73

作曲は、1808年から09年にかけて。“傑作の森”と呼ばれる、ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770-1827）の爆発的な創作期の最後期にあたる。

1809年といえば、彼が本拠地としていたウィーンがナポレオン・ボナパルト（1769-1821）率いるフランス軍により2度目の占領を経験した年である（1度目は1805年）。またそうした事情から、初演そのものは1811年11月28日、ウィーンから遠く離れたライプツィヒでおこなわれ、ベートーヴェン自身も立ち会うことはなかった。ようやくウィーンで最初にこの曲が上演されたのは1812年2月11日のこと。ベートーヴェンの弟子であるカール・チェルニー（1791-1857）がピアノ独奏を務めた。

なおこの頃からベートーヴェンは、『交響曲第7番』（作曲は1811～12年）等に聴かれるように、リズムに溢れた祝祭的な作品を多数書くようになる。“暗から明へ”、あるいは“闘争を経て勝利に至る”という、彼自身が打ち立てた作品の展開パターンを越えてゆくかのように。

たしかにこのピアノ協奏曲にも、これまでのベートーヴェンが書いた同ジャンルの作品以上に、明るさや躍動感が満ちている。それがいきなり発揮されるのが、第1楽章の幕開け。ピアノ独奏で協奏曲が始まるというパターンは、『ピアノ協奏曲第4番』でも実践済みだが、『ピアノ協奏曲第5番』では「ジャーン」というオーケストラの華々しい和音に先導され、華麗なピアノリズムが炸裂する。しかも変ホ長調という調性は元々、英雄や君主の凱旋を象徴する輝かしさを具えていると考えられてきた（だからこそ《皇帝》という愛称が生まれたのだが、これはベートーヴェン自身の命名ではない。）

あるいは第2楽章。同じ2番目の楽章であっても、『第4番』では不安と悲哀に満ちた響きが溢れていたが、『第5番』には平安と憧れに満ち満ちている。そしてこの至福の楽章は途切れることなく、躍動感に溢れたフィナーレの第3楽章へと続き、しかもこの楽章の最後はティンパニとピアノの掛け合いが耳を奪う。

奇しくもウィーンでこの協奏曲が鳴り響いた1812年は、「フランス皇帝」として現世を謳歌したナポレオンが失脚への道を辿り始めた年。それに代わるように、《皇帝》の愛称を戴くことになる『ピアノ協奏曲』が華々しく登場した。

第1楽章：アレグロ、4/4拍子、変ホ長調

第2楽章：アダージョ・ウン・ポコ・モツ、4/4拍子、ロ長調

第3楽章：ロンド・アレグロ、6/8拍子、変ホ長調

楽器編成 独奏ピアノ、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、ティンパニ1、弦楽5部。



← YouTube チャンネル
【5分でわかる大人のためのオーケストラ入門】
今月のイチオシ「田園」を聴こう

お客様へのお願い ●演奏中はお手持ちの時計のアラーム、または携帯電話などの電源はお切りください。手荷物、傘、チラシ類などの物音、話し声や体の動きなどで他のお客様のご迷惑にならないようご配慮をお願い申し上げます。尚、録音、録画、演奏中の写真撮影は固くお断りしております。

ベートーヴェン：交響曲第6番《田園》へ長調 op.68

先ほども触れたベートーヴェン“傑作の森”の時代の最中、1807年から08年にかけて、『交響曲第5番』（いわゆる《運命》）に取り組んでいたのと同じ頃に作られた。

なおこの曲の副題、日本語では《田園》と訳されるが、原題は“Pastorale”となる。そして“Pastorale”とは、古代ギリシアでは「牧歌劇」、キリスト教においてはイエスの「降誕劇」をも意味していた。荒野で羊の番をしていた牧人たちが、貧しい馬小屋で生まれたイエスを拝みに来る場面に登場する、6/8拍子に基づく温かく安らぎに満ちた音楽である。

このPastoraleと呼ばれる音楽が、当交響曲の第5楽章にも登場する。ベートーヴェン自身によって「牧人たちの歌一嵐の後の喜ばしく感謝に満ちた感情」という標題が書き込まれ、Pastoraleの特徴である6/8拍子の穏やかな楽想が基本となっている。

実のところベートーヴェンの交響曲第6番は、単なる田園生活を描いた以上の意味合いを具えている。たとえば、第1楽章の標題「田舎に到着した時の快活な感覚の目覚め」。これは内面描写であって、「自分が何を感じるか」という問題意識に基づくもの。第2楽章の「小川の情景」も同様だ。楽章の最後に様々な鳥のなき声が登場するなど絵画的描写の要素が目立つものの、自然の風景を自らの中で咀嚼し表現するという、ベートーヴェン個人の意識が顕著に投影されている。

そんな2つの楽章に続いて登場するのは、第3・4・5楽章であり、中断なしに演奏されるよう、ベートーヴェン自身によって指定されている。つまり3つの楽章を連続して体験してほしいという彼の強いこだわりの表れであって、交響曲の各楽章がバラバラに演奏される古くからの習慣が残っていた当時においては、異例ともいえる斬新さだ。（またこれと連動し、伝統的な4楽章構成にさらに1楽章を加えた全5楽章構成となっているのも、革新的な試みだった）

ではこうした「新しさ」によって、何がもたらされたのだろうか？ベートーヴェン作品の特徴ともいえる“暗から明へ”という流れが明確に立ち現れることとなった。第3楽章の束の間の〈明〉＝「田舎の人々の愉快な集い」が、第4楽章の〈暗〉＝「夕立と嵐」によって破壊された後、件の第5楽章つまりは究極の救いとしての〈明〉が訪れる、という構成に他ならない。

救世主による人類救済の象徴であるPastoraleは、こうしてベートーヴェンを通じ、人間一人一人が自らの救いを求めて立ち上がるPastoraleへと変容を遂げたのである。

第1楽章：「田舎に到着した時の快活な感覚の目覚め」アレグロ・マ・ノン・トロポ、へ長調、4分の2拍子、ソナタ形式

第2楽章：「小川の情景」アンダンテ・モルト・モツ、変ロ長調、8分の12拍子、ソナタ形式

第3楽章：「田舎の人々の愉快な集い」アレグロ、へ長調、4分の3拍子、スケルツォ

第4楽章：「夕立と嵐」アレグロ へ短調、4分の4拍子

第5楽章：「牧人たちの歌一嵐の後の喜ばしく感謝に満ちた感情」アレグレット、へ長調、8分の6拍子、ロンド・ソナタ形式

楽器編成 ピッコロ1、フルート2、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン2、トランペット2、トロンボーン2、ティンパニ1、弦楽5部。

◎この演奏会では、目の不自由なお客様のために点字プログラムをご用意しております。ご要望の方は主催受付までお申し出ください。



Column

歴史でひもとく! ~クラシックこぼれ話 by 小宮正安



『田園』、ぶどう、ワイン…

解説でも書いたように、たとえ自然描写そのものではないにせよ、ベートーヴェンの『田園』はもちろん自然と密接な関係にある。またそうした意味で、この作品は「植物」と切っても切り離せない。

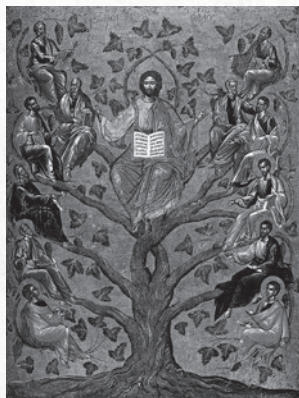
さらに『田園』の原題が、イエスの降誕とも関係する“Pastorale”であることを顧みるに、この作品は宗教的な意味合いでの「植物」とも関わって来るのではないか。何しろベートーヴェン自身、聖書をとことんまで読み、「神」とは何かを終生にわたって探求したのだから（もっとも彼はそれゆえに、権威化した教会や聖職者に対しては距離を置き続けることになってしまう）。

ちなみに、キリスト教と切っても切り離せない植物の1つが「ぶどう」である。イエスが活動したとされる中東では、厳しい気候の中、ぶどうの実人は人間にとって欠かせない栄養源であり、ワインは貴重な飲料だった。つまりぶどうとは生命の象徴であり、またそうした考え方を基に、神（あるいはイエス）をぶどうの木、人間をぶどうの枝にたとえ、ぶどうの木につらなる枝にこそ、本当の生命が漲るという考え方が存在した。

ベートーヴェンの中にも、そうした古くからの宗教観が、しっかりと根をおろしていたのではないか。『田園』の第5楽章の途中からは、それまでのシンプルな旋律がうねうねと波うち、木から枝に、さらには枝が葉を茂らせてゆく様を彷彿させる曲想となる。

しかも“Pastorale”という題名を用いたということは、凝り固まった教条主義と一線を画し、神によって創造された原初の世界にあった自由や平安を再び蘇らせようという、ベートーヴェン自身の熱き思いの結晶に他ならない。つまりやがて「第九」にも結実する世界観…。これこそが、『田園』の最終楽章のメッセージなのである。

ちなみにベートーヴェンが『田園』を着想したウィーンの森は、ぶどうとワインの名産地。ベートーヴェンもそこで製造されるワインが大好きだったが、ワインとはヨーロッパの人々にとってそれは今もなお、単に美味しい酒というだけにとどまらず、聖なる一滴なのである。



東方正教のアイコンに描かれた、ワインの木としてのイエスと、その枝に連なる弟子たち。(16世紀)

Next YOKOHAMA

第399回 横浜定期演奏会

2024年7月7日 日曜日 17:00
横浜みなとみらいホール

※日曜開催です。ご注意ください。

指揮: 鈴木優人

サクソフォン: 上野耕平*

トマジ: パラード サクソフォンと管弦楽のための*

ピアノ (啼鵬編曲):

《エスクアロ (鮫)》* / 《オブリビオン (忘却)》* / 《リベルタンゴ》*

ベートーヴェン: 交響曲第7番 イ長調 op.92

終演後はシーズンファイナルパーティー開催!

S ¥8,000 A ¥6,500 B ¥6,000 C ¥5,000 P ¥4,000 Ys (25歳以下) ¥1,500

※ Ys 席: 25歳以下の方が対象のお席です。S席以外から選べます。

©Marco Borggreve



鈴木優人



上野耕平

16:20 ~
布施砂丘彦氏による
オーケストラガイド

コバケン・ワールド セット券 (3公演)

S ¥13,900 A ¥10,800 B ¥8,700

※ P・Gs セットは完売しました



コバケン・ワールド Vol.37

2024年9月29日 日
14:00

昭和女子大学
人見記念講堂

ヴァイオリン:
高木凜々子*



スッペ: 喜歌劇《軽騎兵》序曲

エルガー: 愛の挨拶*

サラサーテ:

ツイゴイネルワイゼン*

サラサーテ: カルメン幻想曲*

ベートーヴェン:

交響曲第5番《運命》

コバケン・ワールド Vol.38

2025年1月12日 日
14:00

サントリーホール

ヴァイオリン:
田野倉雅秋



J. シュトラウスⅡ世:

ワルツ《美しく青きドナウ》

メンデルスゾーン:

ヴァイオリン協奏曲

ドヴォルジャーク:

交響曲第9番《新世界より》

コバケン・ワールド Vol.39

2025年3月23日 日
14:00

サントリーホール

ピアノ:
小林亜矢乃



モーツァルト:

ピアノ協奏曲第20番

リムスキー=コルサコフ:

交響組曲《シェエラザード》

■日本フィル YouTube

【5分でわかる！大人のためのオーケストラ入門～今月のイチオシ編】

第46回 ベートーヴェン「田園」を聴こう

第47回 こんな室内楽の楽しみ方はいかが？

公開中！
チャンネル登録
お願いします！



■テレビ番組レギュラー出演のお知らせ

日本フィルがBSに。指揮者が語るミニ番組！『Welcome クラシック』BS朝日 毎週水曜日 22:54～23:00 (第3週、第4週は再放送)。ぜひご覧ください！

■本日の公演は終演時のカーテンコールでの写真撮影が可能です。

携帯電話・スマートフォン付属のカメラで着席のまま撮影をお願いいたします。フラッシュ、動画撮影はお控えください。詳しくは会場の掲示をご覧ください。

もうすぐ発売！

第407回 名曲コンサート

2024年10月27日(日) 14:00 サントリーホール

指揮：広上淳一 [フレンド・オブ・JPO (芸術顧問)]

ソプラノ：中村恵理 メゾソプラノ：福原寿美枝 テノール：宮里直樹 バリトン：高橋宏典

オルガン：長井浩美

合唱：日本フィルハーモニー協会合唱団

J.S. バッハ：主イエス・キリスト、われ汝を呼ぶ BWV639、主よ、人の望みの喜びよ 他 (以上オルガン独奏)

ヴェルディ：レクイエム

7/11 発売！

◆定期会員券ご寄付のお願い◆

お客様のご都合により、定期演奏会にご来場いただけなくなった時は、是非日本フィルにチケットをご寄付ください。有効に活用させていただきます。

【ご寄付の方法】

ご寄付いただける会員券の公演日・座席数・座席番号を日本フィル・サービスセンターにお電話かFAX、メールにてご連絡の上、会員券をご郵送ください。主催会場でも受け付けます。

●公演1週間前のご寄付に関しては、会員券のご郵送は不要です。●会員券のご郵送料はお客様にてご負担いただきます様ご協力をお願いいたします。

●ご寄付いただいた定期会員のお客様には、ご寄付いただきました公演月のプログラム冊子を後日ご郵送いたします。また、翌月または翌々月のプログラムにご芳名を掲載させていただきますので、掲載をご希望されないお客様はご連絡をお願いいたします。

横浜定期演奏会の定期会員券をお譲りいただきました。5月の寄付者 匿名8名
心より御礼申し上げます。

敬称略・五十音順

日本フィル・サービスセンター

〒166-0011 東京都杉並区梅里1-6-1

TEL: 03-5378-5911 (平日10時～17時)

FAX: 03-5378-6161 (24時間)

e-mail: order-ticket@japanphil.or.jp

横浜定期会員の特典

横浜ベイホテル東急(横浜みなとみらいホール向かい)にて、メンバーズ優待を行っております。

飲食：下記店舗で、飲食料金が10%OFFとなります。(4名様まで) ※除外日および対象外メニューあり

オールデイダイニング「カフェ トスカ」/ラウンジ「ソマーハウス」/日本料理「大志満」

中国料理「スーツァンレストラン陳」

※会計時に横浜定期会員券をご提示ください。※この割引は日本フィルのコンサート開催日以外にも有効です。※指定以外の店舗、および宴会は対象外ですのでご了承ください。※他の特典・割引との併用はいたしかねます。

公益財団法人 日本フィルハーモニー交響楽団 (1956年6月創立)

- 創立指揮者/渡邊暁雄
●桂冠名誉指揮者/小林研一郎
●名誉指揮者/ルカーチ・エルヴィン
●名誉指揮者/ジェームズ・ロッドラン
●客員首席指揮者/ネーメ・ヤルヴィ
●首席指揮者/カーチュン・ウォン
●桂冠指揮者兼芸術顧問/アレクサンドル・ラザレフ
●フレンド・オブ・JPO (芸術顧問) /広上淳一

公式X (元 Twitter) @Japanphil

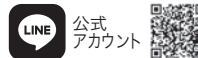


Table with 4 columns: 理事/副理事/専務/常務, 名誉顧問, 団友, and 団員. Lists names and titles of board members, advisors, and staff.